

< 素案 >

伯耆の国よなご文化創造計画

後期基本計画

平成24年 月

米子市

# 目 次



	<p>I章 はじめに ～ 後期基本計画の策定にあたって ～</p> <p>1 後期基本計画の位置づけ</p> <p>2 後期基本計画の期間</p> <p>1 頁</p>
	<p>II章 現状と課題</p> <p>1 これまでの取組からみた課題</p> <p>2 社会情勢や市民ニーズからみた課題</p> <p>3 アンケート結果から見た課題</p> <p>2 頁 ～ 6 頁</p>
	<p>III章 これからの取組</p> <p>1 後期基本計画の策定方針</p> <p>2 実施する基本施策</p> <p>(1) 拠点施設となる文化施設の整備と拡充</p> <p>(2) 歴史的文化の保護と活用</p> <p>(3) 情報のデジタル化と情報基盤の拡充</p> <p>(4) よなごらしい文化活動の創造</p> <p>3 主な取組</p> <p>7 頁 ～ 11 頁</p>
 かる (仮名)	<p>IV章 むすびに ～ 取組の実施にあたって ～</p> <p>12 頁</p>

# I章 はじめに

## ～ 後期基本計画の策定にあたって ～

### 1 後期基本計画の位置づけ

これまで本市では文化芸術の振興のため、総合計画に示す本市の目指す将来像の実現を目的として、平成19年3月に「伯耆の国よなご文化創造計画（以下「創造計画」といいます。）」を策定して各種施策を実施してきました。

この期間において、社会情勢の変化と多様化する市民ニーズや新たな行政課題の出現など、状況がめまぐるしく変化するとともに、本市の総合計画も第2次総合計画（米子いきいきプラン2011）として新しく策定されるなど、創造計画についても、状況に応じた見直しの必要性も生じてきました。

このような状況から、創造計画の前期期間が最終年度となる平成24年度において、これまでの取組状況を確認して、個々の実施施策について進捗状況に応じてこれからの更なる進展のために内容を見直すことや、施策推進のために新たに生じた課題に対応すること、また、第2次総合計画で示す＜人を大切にし、豊かな心と文化を育むまちづくり＞を目指すため、これからの米子市の文化創造のための取組を創造計画の後期基本計画としてまとめました。

### 2 後期基本計画の期間

この期間は、創造計画の後半である平成25年度から平成31年度までの7年間とします。

## Ⅱ章 現状と課題

### 1 これまでの取組からみた課題

創造計画は、平成17年度から平成24年度までを前期期間として事業の進展を図ってきました。

この間、次のような事業を実施して、これからの課題を見つけています。

#### (1) よなごの宝の掘り起こし事業と文化創造人づくり事業

地域に埋もれているたくさんの歴史的資源を掘り起こして、その中から「よなごの宝88選」を選定しました。

選定結果により作成した冊子を頒布して、市民に紹介するほか、現地探訪やよなごの宝を語る会の開催など、地域の宝を掘り起こして活用する動きを市民自ら企画・開催して、人材育成につながる「文化創造人づくり事業」としての展開も図られています。

#### (2) 文化活動の促進支援事業

「よなごの景観88選」を選ぶためのフォト・コンテストを開催して、多くの募集をいただいた結果、自分たちが暮らす地域に対する親しみや愛着心を育むんでいただくことができました。

また、市民と行政が一体となった写真展の開催や選ばれた写真を題材にした写真集を市民有志の手によって作成したことにより、市民意識の発揚など、文化芸術活動の活性化の一助とすることができました。

#### (3) 文化施設等の整備事業

埋蔵文化財センター整備事業として、埋蔵文化財の保管・保存を行った上で、公開・活用、調査・研究機能を持った施設の整備を行いました。

この機能を十分に活用するため常設展示の充実や現地説明会、体験教室の開催など事業の展開を行っています。

また、伯耆古代の丘整備事業として、当時の姿を疑似体験できる空間の再現などから、歴史に対する理解を深めていただくためのガイド施設整備と上淀廃寺跡周辺の陶板地形図や来訪者用の公衆トイレの設置など環境整備も進めました。

その他、歴史関係施設が保有する資料を整理、記録した上、デジタル化保存する作業がほぼ完了したことから、多種多様な資料の活用が可能となりました。

これらの取組の結果から、「よなごの宝88選」による地域に埋もれている史跡、文化財の掘り起こしや「フォト・コンテスト」「よなごの景観88選」による米子市の魅力の再発見などを始めとして、文化芸術活動の活性化の促進に一定の成果を見ることができました。

今後は、これらの活動が更に広がること、また、各地域においても新しい取組が生まれ、なおかつ、一度限りのイベントで終わることなく、継続して活発な活動が全市的に展開されていくことを目指して、人づくりを推進することと活動環境の整備を行うことなど、これからの市民活動の推進のために、実施すべき課題を見つけることができました。

また、個人や団体の活動拠点施設である、平成25年度にリニューアルオープンする図書館、美術館と公会堂については、更なる有効な活用方法を検討する必要があります。

その他歴史関係施設が保存する資料の整理と記録を進めているところですが、これらの有効活用についても更に進めていく必要があります。

## 2 社会情勢などからみた課題

創造計画を策定した平成19年から現在まで、少なからず社会情勢が変化し、市民の文化芸術に関する志向も多様化しています。

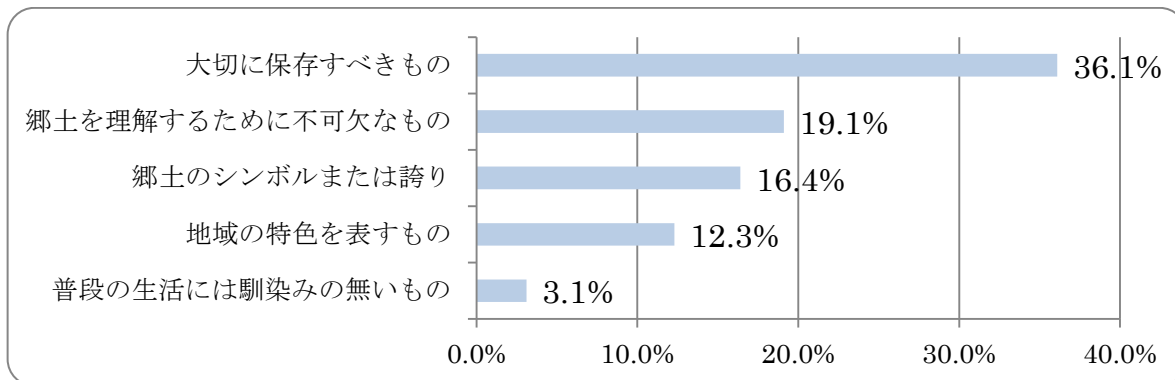
より多種多様な文化芸術に触れる機会を創出すること、高齢社会にあって、生涯を通して学習するための情報の発信や学習する場を提供すること、また、自らの創造とその発表の場の提供や、更に、これまで以上に子どもや青少年が郷土文化に触れながら学ぶ機会を提供することとこれらの活動を推進する人材を見つけ育てていくことなど、より多くのニーズが明確に現れています。

また、前述のような、これまでの取組をより広げていくことだけでなく、平成24年度の国際マンガサミット鳥取大会の開催に合わせた「まんが王国鳥取」の建国に呼応した、マンガやアニメなどの広がりから見られるように、これからの文化の創造と進展のためには、ポップカルチャーについての新しい取組なども必要となっています。

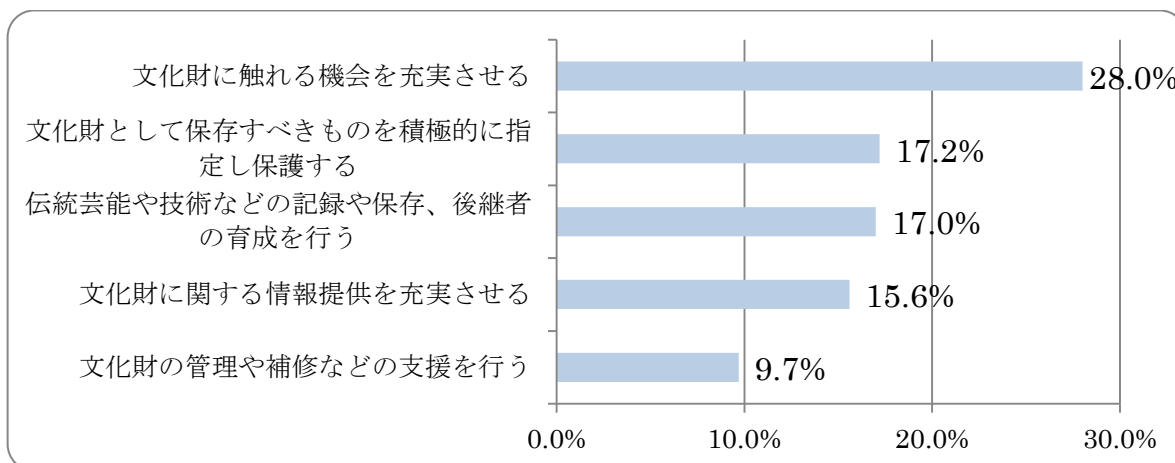
### 3 アンケート結果からみた課題

平成23年度に米子市教育基本振興計画の策定のために行った市民アンケートは次のような結果でした。

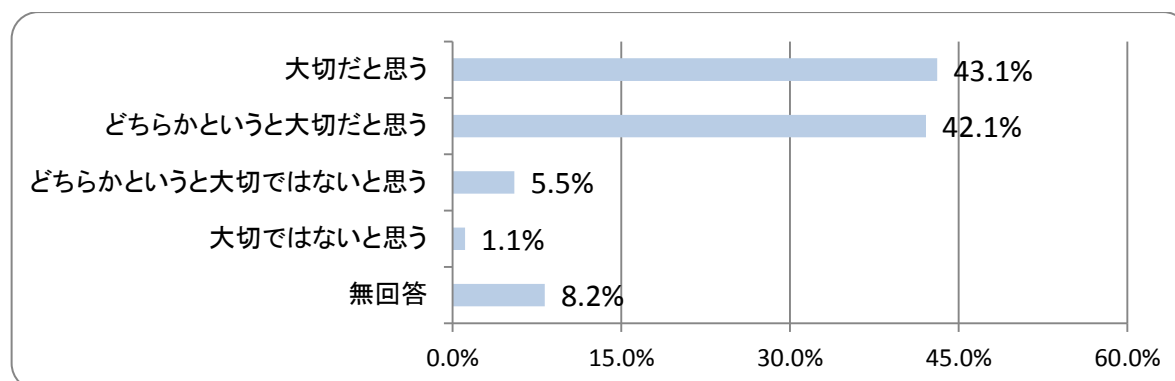
○文化財とはどのようなものだと思いますか。



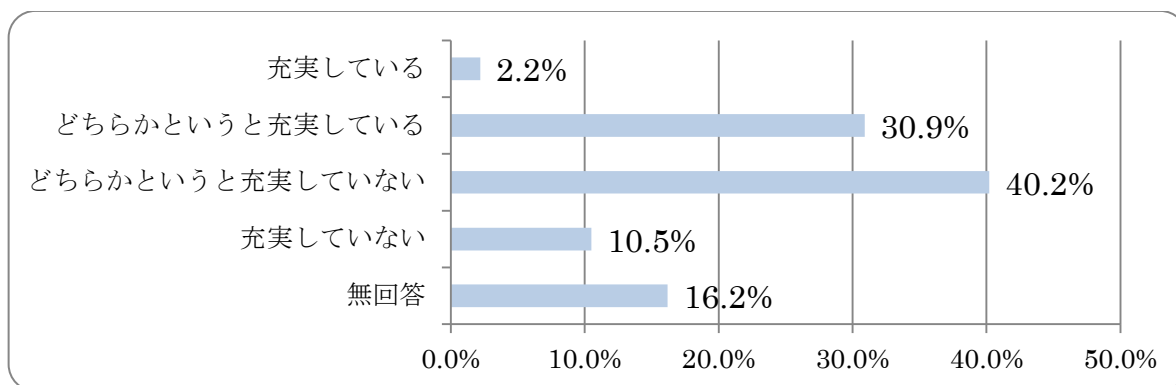
○文化財の保存や活用について、米子市はどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。



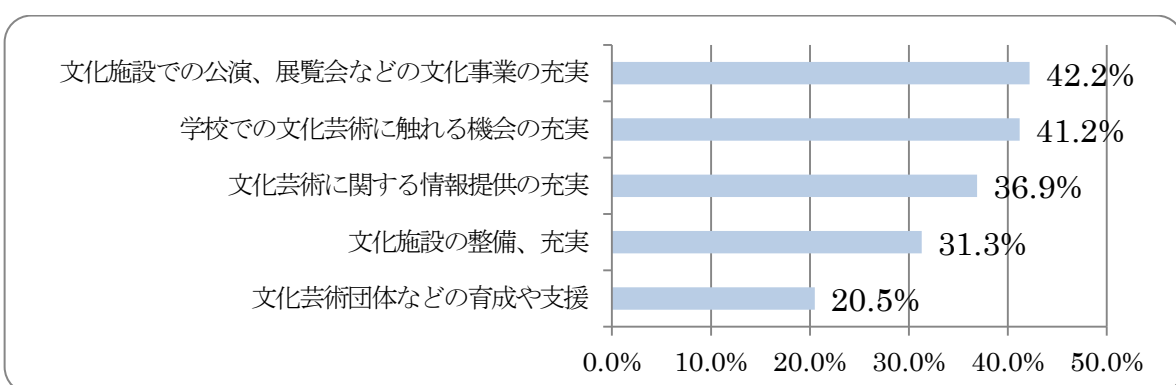
○日常生活の中で、文化芸術を鑑賞したり、自ら文化芸術活動を行ったりすることは大切なことだと思いますか。



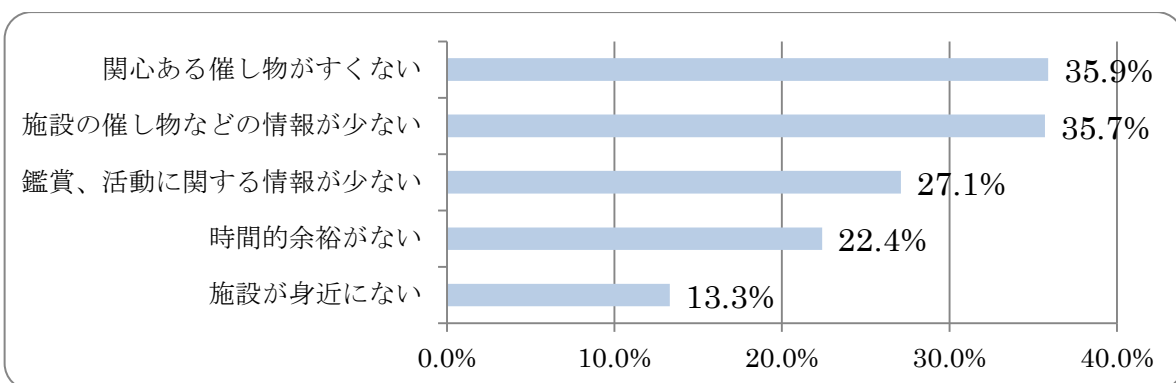
○あなたは、米子市の文化芸術環境についてどのように思われますか。



○文化芸術振興のために、米子市はどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。（複数回答）



○文化芸術鑑賞や活動で支障となっていることがありますか。（複数回答）



○その他自由意見

- ・文化施設が少なく、あっても質が悪い。
- ・米子市（山陰）の歴史、ふるさと米子の誇れるものを挙げられる人が少ない。

米子市には、「よなごの宝88選」の成果からも見られるように非常に多くの文化資産があります。

しかしながら、アンケート結果のように、文化財の大切さを多くの市民が認識している中、その保存や活用が十分でないと感じられている結果が伺えます。

また、多くの貴重な文化資産の存在自体が知られていないようです。

米子市ホームページ、市報などでも都度、情報の提供をしていますが、これまでの取組が十分でない結果となっています。

情報提供の不十分さなどから貴重な文化資産の存在を知らない、知っていても詳しく説明できる人が少ないなど、市民が地域の文化資産に接する機会が少なく、活用も図りづらくなるという、悪循環が生じている状況に陥っています。

一方、元気に活動をされる高齢者が増えており、多くの方が生涯学習として、講習や研修会などに参加されている状況が増えていますが、残念ながら自己研鑽にとどまり、高齢社会の中で、そのけん引役となる高齢者自らが率先して、得た知識を広く若い世代に伝承する機運の醸成などもこれからの課題の一つに挙げられます。

活用をしていかなければならないもの、そして、地域の宝としてしっかり伝えていくべき伝承文化など市民、地域が自主性を発揮して守り広めるものなど、その性質ごとに見極めて、これからの目標、施策を市民の皆さんと一緒に考えていく必要があります。



## Ⅲ章 これからの取組

### 1 後期基本計画の策定方針

本市の将来像である「生活充実都市・米子」の実現に向けた取組みを推進していくうえで重要なキーワードになるのが「文化」です。

文化は、日々の暮らしの中で私たちの豊かな心を育み、生活にゆとりや潤いをもたらすだけでなく、まちづくりや地域振興を推進していくためにも不可欠な要素です。

本市には、米子城跡、上淀廃寺跡、向山古墳群などの史跡・遺跡をはじめ、長い歴史と特色ある風土に培われた有形・無形の文化財などが数多く存在します。

先人から受け継いだこれらの歴史・文化資源は、地域の伝統や文化に根ざしたシンボルとして地域の魅力を創出し、市民の心のよりどころとして誇りと愛着心を醸成するため欠かすことのできない貴重な地域資源となっています。

しかしながら一方では、これらの存在が十分に知られていなかったり、身近なものとして感じられていなかったりする状況もあります。

このため、継続的な歴史文化の掘り起こしと適切な保護、調査研究に努め、情報発信力の強化を図るとともに、それを次世代へ継承していく仕組みづくりが重要となります。

また、美術館、図書館、公会堂、歴史館など地域における文化・歴史の拠点施設があり、市民の芸術文化の鑑賞・普及・発表の場として、また社会教育の場として利用されています。

しかしながら、施設の老朽化・狭隘化に伴い、文化活動や学習活動に対する市民のニーズを十分に満たしていない状況も生じています。

このため、これらの施設の整備を推進して、市民が多種多様な文化に触れる機会を増やし、自らが積極的に文化活動に参加することができる環境を整えていくことが重要となります。

さらには近年、若い世代のクリエイターなどを中心に、まんがやアニメ、映画などポップカルチャーの分野での活動が活発化しており、県が提唱する「まんが王国とっとり」の取組みに呼応し、産業振興やまちおこしなどとも密接に関係しながら、市民の間に浸透しつつあります。

こうした新しい動きをいち早く取り込んでいこうとする市民の気質や、多様な文化が共存でき得る自由な風土も本市の特徴のひとつであり、歴史や伝統的な文化を尊重し守っていく一方で、個性あふれる「ユルい」文化にも目を向けていくことが重要となります。

そして、これらの地域資源や地域特性を活かし、歴史・芸術・生活文化などさまざまな分野における米子らしい市民文化を、その担い手である市民、文化団体、NPO、企業等と連携し、協力しながら育てていくことによって、市民の文化活動の充実を図り、地域の創造性や活力を高めていかなければなりません。

そのため、平成19年に策定した「伯耆の国よなご文化創造計画」に掲げる基本理念等を踏まえ、文化を切り口としたまちづくりという視点を持ちながら各種施策に取り組むこととし、後期基本計画を策定するものです。

## 2 実施する基本施策

### (1) 拠点施設となる文化施設の整備と拡充

本市が保有する文化施設の老朽化、狭隘化に対応した改修事業を実施するとともに、施設の活用のためのあり方についても検討を行い、文化施設が市民により親しまれ、利用される整備を進めます。

### (2) 歴史的文化の保護と活用

伯耆の国よなごの優れた歴史的文化の継続的な保護を実施しながら、文化活動への有効な活用を行います。

地域から掘り起こした「よなごの宝」を広く市民に伝えることにより、地域文化の振興に役立てます。

### (3) 情報のデジタル化と情報基盤の拡充

各文化施設が保有する歴史や文化に関する情報を引き続きデジタル化し、記録・整理するとともに、これらの情報の活用と、利用者、活動団体が相互に情報の共有と交流を図るための情報基盤の整備を進めます。

### (4) よなごらしい文化活動の創造

文化のまちづくりを推進のため、文化団体、市民団体の自主活動、そして活発に交流、連携して活動するための環境づくりを支援します。

文化活動を将来に進めていく人材の育成を始め、新たな文化芸術の創造を行う若い作家、芸術家の支援にも取り組みます。

### 3 主な取組

実施する基本施策で挙げた4つの柱に基づき、次のような取組を行います。

#### ・文化・芸術拠点施設の整備と活用

図書館、美術館及び公会堂について、平成25年度の工事完了を目指して、利用者の安全確保と、利便性向上のための整備を進めます。

また、リニューアルオープン後には、これまで以上に、市民に親しまれて利用していただけるように、利便性向上のための見直しなどを行います。

#### 取組 POINT

図書館の運営体制の見直し  
美術館、公会堂への喫茶スペースの新設  
文化芸術に触れ合うための各種イベントの積極的な開催

#### ・伯耆古代の丘整備（向山古墳群整備、上淀廃寺第Ⅱ期整備）

伯耆古代の丘周辺は、史跡上淀廃寺跡、史跡向山古墳群、史跡妻木晩田遺跡、重要文化財石馬などの国指定の史跡や重要文化財が集中しており、全国的にも注目をされている地域です。

学術的利用だけでなく、学校教育、生涯学習や観光面においても広く活用していただくために、気軽に接して楽しめる環境とする整備を重点として整備を行います。

#### 取組 POINT

史跡内の園路整備、説明版の設置、石室・墳丘の修復作業  
重要文化財の追加指定および未指定地の買上

## ・歴史関連拠点施設の整備と活用

山陰歴史館は、長期にわたり蓄積されてきた歴史・民俗資料を保護・保存して、市の歴史などについて常設展示や企画展示を通して、歴史に親しむことに寄与してきた施設です。

しかし、昭和5年（1930年）に建築された旧米子市役所庁舎を転用した施設であることから、老朽化、耐震対策など行う必要に迫られています。

市指定文化財として建物自体の保護・保存の必要性の高まりを踏まえながら、今後の利用方法など、施設のあり方を含めた事業の方向性、位置づけを検討したうえで整備事業を実施することとしています。

更に、埋蔵文化センターなどの歴史関連施設についても、利用向上のために各種イベントを継続して実施するほか、新しい取組や広報の充実などにより、歴史資産への積極的な触れ合いの機会の提供を進めます。

### 取組 POINT

山陰歴史館のあり方の検討の題材として、歴史・文化の紹介展示だけの施設ではなく、様々な視点から検討を行います。

## ・米子城跡の整備

米子城跡は、近世初頭の平山城の風情を色濃く残し、中心市街地にある貴重な歴史的、文化的資産であるだけでなく、都市公園の湊山公園の一角を構成して、本丸跡からの展望や緑豊かな自然は景観的ランドマークとして、多くの市民や観光客に親しまれています。

潤いや憩いをもたらす良質な都市空間を創出し、賑わいのあるまちづくりを進めていくための重要な役割を担う史跡であることから、現在の史跡指定地に加え、周辺の重要箇所を追加指定を始めとして、新たな憩いの場をするための史跡整備を実施します。

### 取組 POINT

追加指定地内の私有地の買上

国への追加指定の申請

植栽など公園化の整備、散策道など園路の整備、トイレなど便益施設の整備

## ・情報ネットワークの構築

史跡や歴史関連施設と文化芸術の拠点施設などの紹介とイベント情報の発信、それぞれの施設が保有する歴史資産や文化財と芸術品などあらゆる情報の提供はいろいろなメディアを利用しながら広く行っていく必要があります。

このために、単に既存メディアを利用した情報発信のみにとどまらず、わかりやすく体系づけた情報提供サイトの構築により、利用者が目的の情報を見つけやすく、尚且つ関連情報も一元的に取得できるような仕組みを検討します。

更には、個人、団体などがそれぞれ情報を発信しあいながら、個々の活動紹介と情報交換が出来るようなコミュニケーションネットワークの構築も目指します。

### 取組 POINT

情報ネットワークに求められるニーズの把握  
情報提供システムの設計と開発  
運用方法の検討と実施

## ・市民の文化活動の支援

市内の歴史的文化の掘り起こし事業として実施した「よなごの宝88選選定事業」の成果を活用して、市民で組織した実行委員会が開催する現地探訪や講座、座談会の開催が継続して実施されるよう支援を行うことを始めとして、文化芸術に触れ、広めるための市民活動を積極的に支援します。

また、これらのような市民自らが企画運営する事業を掘り起こして、更に活発に活動するための支援や今後の活動につなげるための人材育成にも協力を行います。

### 取組 POINT

探宝会、語る会など既存活動への援助  
各地域における新しい市民活動事業の促進と人材育成の援助

## ・文化芸術に親しむ機会の提供と支援

市民それぞれが親しんでいる多種多様な文化芸術活動が、より活発化するための支援に取り組めます。

また、広がりを見せているマンガやアニメなどポップカルチャーにも着目し、新しい文化を認め、共存しあいながら、たくさんの文化芸術が根付いて発展していくための取組も進めます。

### 取組 POINT

文化芸術に関する地域活動が、より広まるための活動場所の提供と発表機会の支援  
(公民館の利用向上など活動拠点づくり)

ポップカルチャーを広め、育てる支援

(アニカルまつりや米子映画事変などの継続開催のための支援)

## ・淀江地区の歴史・文化資産の紹介

妻木晩田遺跡、上淀廃寺跡、向山古墳群など、淀江地区にある豊富な歴史遺産と有形無形の文化資産を広く紹介し、歴史・文化への触れ合いのきっかけ作りとこれらの資産の重要性の認識と未来へ保存するための機運の醸成を図っていきます。

また、これらの活動を通して、歴史・文化に囲まれた淀江地区の特徴のあるまちづくりを更に進めます。

### 取組 POINT

展示資料の紹介と史跡ガイド、体験イベントの継続実施

(古代まつり、古代ロマンウォークなど)

文化・観光施設の管理運営と情報発信

(伯耆古代の丘公園、上淀白鳳の丘展示館でのイベント開催など)

## IV章 むすびに

### ～ 取組の実施にあたって ～

本市の文化創造として、古くから伝え守られてきた文化の伝承はもちろんのこと、遺跡や文化財など残されてきた貴重な資源を有効に活用しながら、子どもから大人まで生涯にわたって学習する機会を提供することと、そしてそれを広げ、伝えていくための人づくり、更には、ポップカルチャーも視野に入れた新しい文化芸術の創出など、たくさんの取組を行うこととしています。

このたび策定した「伯耆の国よなご文化創造計画 後期基本計画」に基づき、今後、より有効な取組を実施するために、行政の柔軟な対応とより広く市民や団体・関係機関が関わって知恵を出しながら、それぞれの施策、事業ごとに具体的な実施方法を検討しながら進めます。

